

future-future





■ 教務部長 宮武陽子



カリキュラムはギリシャ語の「走る」に由来し、体系化された教育により、学習者を目的地にいざなう学習の道筋を示すものです。教育の目的を達成するには、理念に基づく十分に練られたカリキュラム設計と学生の主体的な参加が基本的要件となります。さらに、カリキュラムは恒に社会のニーズの変化に対応していく生き物でもあります。伝統的に日本の看護教育を先導する役割を担い、開発・設計された本学部のカリキュラムもその趨勢にならない、変革に取り組んできました。特に近年は生涯にわたって学び続ける主体的な姿勢を培う大学教育が求められ、客観的な指標に基づいて教育の成果が評価される時代になっています。ご承知の通り、大学教育では授業と授業前後の学修により単位修得が認められます。そのため、教師には授業への学生の積極的な参加を促す授業設計と学習を動機づける力量が問われます。学生もまた授業に参加し、教師とともに授業を充実させていく責任を担っています。教務委員会では、学生の皆さまが自分らしく大学での学びをデザインし、達成できるよう、履修相談をはじめ、学生の声を反映した授業改善、自己学習を促す学習環境の整え、履修案内のためのシラバスの充実、学習の便宜を図るための情報提供システムの整備・充実に努めています。

■ 日本小児看護学会第23回学術集会開催



日本小児看護学会第23回学術集会が、平成25年7月13日(土)～14日(日)の2日間、四国で初めての開催となる高知で盛会に終了いたしました。学術集会のメインテーマは、『子どもと家族の力を支える 倫理的判断にもとづく小児看護の創造』であり、全国から看護職者や看護学生も含め1,248名のご参加をいただくことができました。子どもと家族を取り巻く社会の動きや時代の変化に即した企画を通して、ご参加いただいた皆さまから、ホスピタリティのある学会であったこと、活発な意見交換もあり活気にあふれた学会であったこと、看護学部2回生・3回生・4回生の有志の皆さまの丁寧で素晴らしい対応に感動されたというご感想を多数いただいております。

1年6カ月の歳月をかけて学術集会の準備をしてまいりました。無事、学術集会を終了しましたのもひとえに、惜しみない笑顔で協力してくださった看護学部生の皆さま、大学院看護学研究科・健康生活科学研究科院生、修了生の皆さま、看護師の皆さま、看護学部教員のお力添えがあったからこそ、成し遂げることができたと思っております。本当にありがとうございました。この度の経験が、皆さまの今後に大きな糧となりますことを心から願いますとともに、お礼の挨拶とさせていただきます。

日本小児看護学会第23回学術集会事務局
小児看護学領域一同





1回生



4月の入学式から3か月が経ちました。入学当初は、90分の授業での集中力が途絶えたりする学生もいましたが、授業にも慣れてきています。看護に必要な専門基礎科目を学び、興味・関心を抱く一方で、難しさを感じているようです。また、演習では看護者役・患者役を体験し、技術とともに患者さんへの説明や配慮の仕方などを学び始めています。さらに、ボランティアやサークル活動、アルバイトなど、授業以外の活動の幅も広がっており、大学生活を楽しんでいる様子が感じられます。そして、ひとり暮らしをしている学生は、当初、生活に戸惑ったり、帰宅後は寂しかったりしていましたが、友だちもでき、徐々に生活にも慣れてきたようです。

学生さんたちは、ひとり一人、いろいろな体験をし、人として、また、看護者としての力を少しずつ培っています。7月末からは、大学入学後初めての前期試験があります。この数か月間の学習成果を発揮できるよう応援しています。

2回生



大学2回生になれば、大学に慣れ‘大学生活’を謳歌しているはず。しかし、看護学部2回生は看護専門科目が増え、とても忙しい日々を過ごしています。授業は、より専門的な内容になり、看護技術も何度も繰り返し練習が必要な内容になります。本当に、本当に、大変な日々ですが、みんなとても頑張っています。

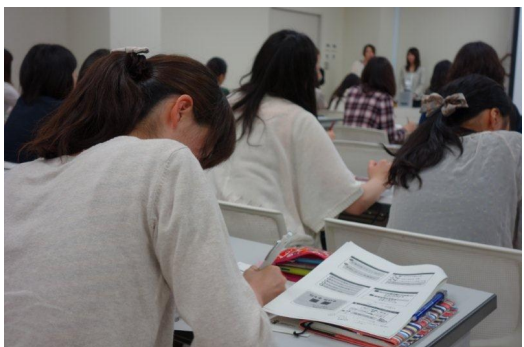
そんな多忙な2回生ですが4月21日創立記念日に新入生のためのバスハイクを企画します。今年は、牧野植物園と野市動物公園に行ってきました(表紙写真)。ちょうど「五台山花絵巻～春の彩り・花皿鉢～」イベントをしており、たくさんの花が土佐の文化である“皿鉢”(さわち)いっぱい咲いていました。最初は緊張もありごちない雰囲気でしたが、一緒に花を見たり動物園をまわる中で、1回生同士の交流だけでなく2回生や教員との交流を深めることができ、楽しい時間を過ごすことができました。

3回生



3回生を対象にした保健医療系就職ガイダンスを6月1日に開催しました。これは、学生が病院の教育担当者や、看護学部の先輩から就職に関するお話を直接聞き、将来の進路について考えるために開催しています。卒業して3～4年目の先輩の話聞き、学生は積極的に質問をして有意義な時間でした。学生からは「今後の進路を考えるうえで参考になった」、「就職についてのイメージができて不安が軽減した」といった感想が寄せられました。後期から始まる領域実習を体験しながら、自分の将来像を具体的に描いていけることを期待しています。

4回生



4回生になって最初の臨床実習である総合看護実習が開始となりました。今まで学び身につけてきた知識や体験を統合させ、対象を多面的に捉え、多職種と協働して問題解決に取り組み、看護専門職として倫理的な義務や責務を考えることを実践の中で学んでいます。看護研究では、看護現場で生じている現象を科学的に解明することを目指し、研究計画書を作成し、12月の完成に向けて看護研究のプロセスを着実に進んでいます。また、国家試験の勉強や就職活動にも取り組んでいます。掲載写真は、就職ガイダンスの場面です。4回生は、将来の夢に向かって確実に歩んでいます。



■ 教育の工夫

ここでは、本年度から取り組んでいる新たな教育の工夫を紹介します。

1. 映像教材サーバーの導入

看護技術を学ぶ科目では、教科書や授業で配布されるプリントだけでなく、実際の手技をみて学習を行う方が効率的な場合があります。看護学部では、以前から数多くの映像教材を導入し、学生さんの自習に活用してきました。しかし、同一タイトルのものを複数本購入するのにも限界があり、複数で視聴できるようなモニターの導入なども行っていましたが、1学年が80人になるとなかなか学生さんのニーズに応えられない状況がありました。

そこで、本年度から映像教材をサーバーで保管し、同時に複数の学生さんが視聴できる環境を整備しました。このシステムは1、2回生の授業中に教材として使用する他に、技術演習の課題としての活用や臨床実習がある学年では実習中の自習などに活用しています。

2. 実習室の再整備

看護学部では、基礎看護学、成人看護学、老人看護学など従来7つの実習室を領域ごとに使用していましたが、学生さんの利便性を高める目的で、再編成を行いました。特に2階にある老人在宅看護実習室は、技術テスト前や実習前の技術練習などの技術系の自習が行える実習室として運用を行っています。これで、技術系の自習が行える実習室は、これまで成人実習室としていた実習室と合わせて2箇所になり、より技術系の自習が行いやすい環境が整いました。また、病棟を再現した実習室も整備し、主に3回生以上の授業や演習、実習で使用しています。



■ 学生さんからのメッセージ

私は平成24年6月に開催された浅井力也高知展に向けて、県内大学生によるサポーターグループ“Student Buddy”の一員となり日々活動しました。本大学においてもプレ展示や力也さんの母・三和子さんによる講演会を開催することができ、彼の存在や彼が描く絵の魅力を学生の皆さんにも知って頂くことができたのではないかと思います。今回の活動を通じて浅井親子をはじめ多くの方々と出会い、人との繋がりの大切さを学ぶことができました。

看護学部2回生 池上綾



4回生になると、実習や卒業論文に加えて就職活動をしたり、国家試験に向かって勉強したりと忙しい日々が続きます。私も先日まで総合看護実習という実習で小児病棟に行っていました。総合看護実習は今まで領域看護実習などで培ってきた自分の看護を統合させ、主体的に患者さんに関わっているものです。自分が興味のある領域で実習ができるので、今まで以上に自分の目指す看護や、看護職者としてどのようにありたいかということ、深く考えられたように思います。これからも、友人と共に各々の目標に向かい、努力し続けていきたいです。

看護学部4回生 池上示帆

〔ニュースレターの名前の意味〕 fure-fure 学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp